

研究機関名：東北大学

受付番号： 2016-1-828
研究課題名 抜管失敗と体重増減との関係性
実施責任者（所属部局・分野等・職名・氏名）： 東北大学大学院医学系研究科 救急医学分野 講師 工藤大介
研究期間 西暦 2016 年 3 月（倫理委員会承認後）～2018 年 3 月
対象材料 <input type="checkbox"/> 過去に採取され保存されている人体から取得した試料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名： ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名： ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ） ■研究に用いる情報 ■カルテ情報 <input type="checkbox"/> アンケート <input type="checkbox"/> その他（ ） 対象材料の採取期間：西暦 2006 年 10 月～西暦 2013 年 3 月 対象材料の詳細情報・数量等： （対象疾患名や数量等の詳細を記すこと。多施設共同研究の場合は、全体数及び本学での数量等を記すこと。） 東北大学病院高度救命救急センターICU に入室し、24 時間以上の人工呼吸管理を要し、予定抜管を施行した 178 例。
研究の目的、意義 集中治療室入室患者の予定抜管における再挿管率は 10%を超えるとされており、再挿管となった患者の死亡率は高く、ICU 滞在期間は抜管成功患者に比べ長い【1-4】。抜管失敗のリスクファクターとしてこれまで気道狭窄・閉塞、痰喀出力が不十分、呼吸不全（気道の問題はないが肺での酸素化や換気の問題がある）、抜管前の輸液のプラスバランスなどが示されてきた【1,5,6】。しかし、体重増加と抜管失敗の関係に関しては明らかにされていない。本研究では、抜管失敗と体重増加の関係を検討することを目的とする。この関係を明らかにすることにより抜管失敗を未然に防ぎ、重症患者の転帰を改善することに繋げたい。 【参考文献リスト】 1 Vivar FF, Ferguson ND, Esteban A, et al. Risk Factors for Extubation Failure in Patients Following a Successful Spontaneous Breathing Trial. Chest 2006; 130:1664-1671 2 MacIntyre NR, Cook DJ, Ely EW, et al. Evidence-based guidelines for weaning and discontinuing ventilator support. Chest 2001; 120:375S-395S 3 Epstein SK. Decision to extubate. Intensive Care Med 2002; 28:535-546 4 Manthous CA. The anarchy of weaning techniques. Chest 2002; 121:1738-1740 5 Upadya A, Tilluckdharry L, Muralidharan V, et al. Fluid balance and weaning outcomes. Intensive Care Med 2005; 31:1643-1647 6 Seymour CW, Martinez A, Christie JD, et al. The outcome of extubation failure in a community hospital intensive care unit: a cohort study. Crit Care 2004; 8:R322-327

## 実施方法

- 対象期間：2006年10月（当救命救急センター 開設）～2013年3月
- 対象患者：24時間以上の人工呼吸管理を要し、予定抜管を施行した178例
- 評価項目：ICU入室から抜管前48時間における体重変化と抜管成功の有無。輸液バランスと抜管成否の関係も検討する。
- 方法：診療録から情報を収集し、抜管成功群と失敗群の患者背景、体重変化および輸液バランスを比較。ロジスティック回帰分析による多変量解析で関連因子を調節した上で、抜管前の体重変化および輸液バランスが抜管成功／失敗の独立した予測因子になるかを検討する。

## 研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手・閲覧方法

研究計画書及び研究の方法に関する資料は、入手又は閲覧が可能である。ただし、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られる。入手・閲覧の希望がある場合は、下記問い合わせ窓口に連絡する。

## 個人情報の利用目的の通知に関する問い合わせ先

保有個人情報の利用目的の通知に関するお問い合わせ先：「本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口」

### ※注意事項

以下に該当する場合にはお応えできないことがあります。

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の1(3)>

- ①利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ②利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、当該研究機関の権利又は正当な利益を害するおそれがある場合

## 個人情報の開示等に関する手続

本学が保有する個人情報のうち、本人の情報について、開示、訂正及び利用停止を請求することができます。保有個人情報とは、本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した個人情報です。

1) 診療情報に関する保有個人情報については、東北大学病院事務部医事課が相談窓口となります。詳しくは、下記ホームページ「配布物 患者さまの個人情報に関するお知らせ」をご覧ください。（※手数料が必要です。）

【東北大学病院個人情報保護方針】 <http://www.hosp.tohoku.ac.jp/privacy.html>

2) 1)以外の保有する個人情報については、所定の請求用紙に必要事項を記入しを情報公開室受付窓口へ提出するか又は郵送願います。詳しくは請求手続きのホームページをご覧ください。（※手数料が必要です。）

【東北大学情報公開室】 <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kokai/disclosure/index.html>

### ※注意事項

以下に該当する場合には全部若しくは一部についてお応えできないことがあります。

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の2(1)>

- ①研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ②研究機関の研究業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
- ③法令に違反することとなる場合

## 本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口

東北大学大学院医学系研究科救急医学分野

担当 工藤 大介

仙台市青葉区星陵町2-1 TEL:022-717-7489 (医局), 022-717-7024 (高度救命救急センター), FAX:022-717-7492

E-mail: [information@emergency-medicine.tohoku.ac.jp](mailto:information@emergency-medicine.tohoku.ac.jp)